一粒耕心

白神山うど
～一足早い春の訪れ～

山谷　啓一さん
（能代市二ツ井町・富根）

現在、出荷の最盛期を迎えている『白神山うど』。サクサクした食感とほろ苦さが魅力で、春の香りをそのまま食卓へと運んでくれます。「袴の赤、茎の白、葉の緑」が特徴で、目にも鮮やかな品質を保持するために、部会員は、査定会による品質の統一、適期収穫に努めています。

能代市二ツ井町で、そのような新鮮でおいしい『白神山うど』を生産・出荷している山谷啓一さん。山うど栽培を始めたのは約10年前、農閑期を利用した作物の模索や米価の下落への対応のために始めました。「まだまだ新人だよ」と話す山谷さんは、研修会等に積極的に参加して、技術向上を図っています。

山谷さんの圃場では『紫芽白』、『東武鯉玉』の2品種を栽培しています。栽培について伺うと「株の養成では圃場の排水対策を徹底し、伏せこみ後は地温の確認を欠かさず行っています。今年は休眠も十分で長さが揃った品質の良い山うどが出てきている」と山谷さん。4月上旬まで続く収穫作業に期待を膨らませています。

今後について山谷さんは「その年その年で作柄は違う。複合的に栽培法を考え、計画的に作業に取り組んでいきたいと思っています。商標登録となっている『白神山うど』の名に恥じないものを出荷していきます」と力強く話してくれました。

経営規模

白神山うど	……
水稲	……
大豆	……
	1.06.470
	ha ha a